「こんにちは！アイドルの福山舞ですっ！今日は一日よろしくおねがいします♪」
大陸中に元気な声が響き渡る。突如惑星に現れた超巨大な生物は一歩ごとに街を踏み潰し、そこに住む何十万人もの人々を圧殺していく。

ゴゴ

ズドォォォン…

ゴゴ

ゴ

ザァァァ…

ドキ♡

ドキ♡

ズ ズ ズ ズ ズ

「あれっ？たしかこのあたりだと思ったんだけど…」
舞ののんびりとした声とは対象的に、地上の都市は混乱に陥っていた。
全長数百kmはありそうな巨大生命体が山も街も関係無く踏み潰しながら歩いてくる。人々は巨人から逃げようと我先に街からの脱出を試みるが、そんな彼らの頭上に大きな影が迫る。

ズンッ!!!

あまりにもあっけなく、数十万人が踏み潰され地面と一体化する。
舞が何気なく踏み出した一歩が、足元にあった街を踏みにじる。
凄まじい質量を支える彼女の足裏が大地にめり込み、その汚れた素足の下であらゆる物体を圧縮してしまう。後に残るのは超巨大な足跡で、その中には人間や建造物だったであろう物がぐちゃ混ぜになりながら広がっていた。
マイクロ水着を着た巨大アイドルはそれに気付く事もなく、キョロキョロと周りを見渡す。
「撮影予定の街、わからなくなっちゃいました…。でも私の大きさなら、きっとどこからでも撮れますよね♪」

グシャ

グシャ

グシャ

ズドォォォォォォ!!

ズゥゥン…

ズゥゥゥゥン…

「小人さん、私の体どうですか？遠慮なく撮って下さいね♪」
地響きを立てながら舞が地面へとうつ伏せになる。
緊張と高揚により汗ばんだ身体全体で大陸に覆いかぶさり、
いくつもの都市を磨り潰していく。
「んっ…ひんやりして気持ちいいです♪」
彼女の汗を冷やす代償に、数百万人の小人が消費されていた。

ハァハァ♡
ドキドキ
ズズ…
ゴゴ
ゴゴ
ゴゴ
ゴ
ぐりぐり♡
ズゴゴゴ…
ぐりぐり♡

「汗いっぱいかいちゃった…小人さん、臭くないかな？」
大気に巨大アイドルの体臭が充満していく。立ち上る
熱気が周囲に雲を作り、世界は舞の匂いで満たされつつ
あった。地表の文明は舞の身体で押し潰され、酸素は
匂いで上書きされ、超巨大福山舞はただそこにいるだけ
で大災害を引き起こす怪獣と化していた。

ゴゴゴゴゴ……。
肌色の壁が山脈を押し潰し、都市に迫る。
むちむちとしたアイドルの股間。マイクロ
水着が食い込む舞の盛り上がった土手が
ちっぽけな都市の前に鎮座していた。
「えへへ…小人さんに大サービスです♪
舞の恥ずかしい所、よく見えますか？」
何十万人もの人間が住む街よりも巨大な
ぷにマンが独特の熱気とフェロモンを
振りまく。超巨大な舞の食い込みマンコの
壁を見上げながら、ミクロサイズの人類は
絶望するしか無かった。

むにっ♡
むぁっ
ミチ
ミチ…
ギチッ
むちっ♡
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ…
グシャ
グシャ
むん
むんっ♡

「このポーズ、ちょっとエッチだったかな…？」
大股を広げ、水着を食い込ませ地面に擦り付ける舞。
若干心配しつつ、引き続き体を大陸に押し当てる。
「んっ…この感じ、気持ちいいんですよね…♪」
小人達からよく見えるようにというのは建前で、敏感
な場所で山脈や都市がプチプチと押し潰される感触
を密かに楽しんでした。
「小人さんは近くから撮影出来て、私は気持ちよく
なれて、一石二鳥です♪……ん？もしかして小人さん、
舞に攻撃してますか？」
感覚を集中させて初めて気付く街からの砲撃。
ちっぽけな彼らは無謀にも、巨大すぎる舞の股間に
反撃をしていた。

「アイドルへの攻撃は…禁止ですっ♪」
一瞬下半身を持ち上げた舞が、そのまま街に向かって股間を押し付ける。
都市を遥かに凌駕する質量のアイドルのギガぷにマンが地面に激突し、周囲の地図を書き換えてしまう。
そこに住んでいた40万人以上の人間が、何が起こったかもわからないうちに舞の汗だくおまんこのシミとなって生涯を終えた。

ドドォォォォォン!!
グシャ
グシャ
グシャ
ミチチ…
ズッ…
むちっ♡

「あっ…凄いっ♡これ気持ち良い‥っっ♡」
興奮によりいつもより敏感になっていた股間を刺激され、舞は夢中で下半身を地面に擦り付け始める。
マイクロ水着がみちみちと食い込む股間を動かす度、何万人もの人間を巻き込み轢き殺していたが、彼女にとってはどうでもいい事だった。

ビくっ
ビくんっ
ビくんっ
ハァ
ハァ
ハァ
グリっ♡ ゴゴ グリっ
グリっ♡ ゴ ゴ ゴ…

「はぁ…はぁ…だめっ♡舞のおまんこプレスで小人さん達死んじゃってる…っ♡」
擦り付けるのをやめようとするが、快楽に逆らえない。うつ伏せになった舞が後ろに下がると、無事だった都市が次々とぷにマンの壁に飲み込まれていった。
「あと一つ…ううん、あと二つくらい潰したらやめよっと…♡」
轟音を立てながら大地を圧縮していく舞のギガまんこが二つの街をいっぺんに磨り潰していく。山脈で隔たれた二つの街だったが、舞はその山々にすら気付かず地域一帯をまとめて超巨大まんこでプレスし、刺激を得ていた。左右の盛り上がった土手で20万人ずつ圧殺した舞はようやく満足したのか、その動きを止める。

むっ
むっ
グシャ
グシャ
ズズズ
ズズ
ミチッ
キュン
ミチ
ミチ
キュン♡
むちっ♡
グシャッ
グシャ
ズズ…

「ふぅ…ちょっと悪い子になっちゃいました…。
小人さん、驚かせてごめんなさい。かわりにサービス
しちゃいます♪」
一通り街オナを堪能した舞が、小人たちに謝りながら
尻を地面につける。
小さい街はそのまま巨尻でぺちゃんこにしつつ、大きめ
の街が尻の割れ目に来るように姿勢を調整する。

「こんな感じかな…？小人さん、しっかり
見えてますか？舞の誰にも見せたことが
無い所…♡特別にたっぷり見てって下さいね♪」

ズズズズ

ズキズキ♡

むちっ♡

ミチッ

ミチ…

ゴゴゴ

もわぁ

むぁ

ゴゴゴ…

凄まじい熱気を放ちながら、直径数kmもの超巨大肛門が
都市の中央へと迫る。多くの人々が行き交う大都市の
中心地である高層ビル群でさえちっぽけに見えるほどの
舞の肛門が、ひくひくと不気味に震えながら聳え立つ。
「えへへ、舞のお尻の穴と小人さんの建物、どっちが
大きいか背くらべ対決です♪私が勝ったらどうしよう
かなぁ。お尻の穴で小人さん達、食べちゃおっかな？」
いたずらっぽく笑い、肛門をヒクつかせる舞。巨大な
渓谷のようなシワがミチミチと擦れ合い震えるだけで
都市に大地震が巻き起こる。
低層ビルがなぎ倒され、住宅地は吹き飛び、人々が絶叫
しながら瓦礫に潰され死んでいく。ただ舞が肛門を
一度動かしただけで、何万人もの被害が出ていた。

もわぁ…

むくっ♡

むちっ♡

ドォン

ドン

ドンッ

グシャ

グシャッ

「あっ…小人さん、ごめんなさい！ちょっとオナラ
出ちゃうかも…」
いたずらに肛門を動かしたせいで舞の大腸内が活発化。
その結果、生成されたガスがもう肛門の手前まで迫って
いた。慌てた様子で尻の下を覗き込む舞だが、その目には
小さすぎる人間達の様子はわからない。

「まさかオナラなんかで吹き飛ばないよね…？
ちょっと威力を抑えたら…きっと大丈夫ですよね♪」
考えつつも、大腸内のガスは今にも肛門から吹き出しそう
だ。我慢するという方法もあったが、わざわざ小人達に
配慮する必要は舞には微塵もなかった。
「というわけで今からすかしっぺをするので、逃げたい
小人さんは10秒以内に私のお尻から逃げて下さい！」

ズズズ…

ハァ ハァ ハァ

グシャ

グシャ

宣言する舞がゆっくりカウントダウンを始める。
その響き渡る声の下で、小人達は泣き叫びながら逃げ惑っていた。
都市より巨大な尻から放たれるであろう放屁がどれくらいの威力なのか、
この星に住む人間達には知る由も無い。
たった十秒では街から逃げることも出来ず、彼らは舞の巨大肛門を恐怖
しながら見上げていた。

「ぜろ～～～っ♡」
舞の楽しそうな声を掻き消すような爆音により、一つの街が
地上から消えていた。
威力を抑えたはずの屁は軽快な音を立てながら肛門から
吹き出し、ビルや家々を地盤から根こそぎ消し飛ばしていた。
逃げ遅れた50万人以上の人間が、舞の放屁音で弾け飛び血飛沫
となって屁の匂いと混ざり合う。
たかがすかしっぺであっても、超巨大アイドルの放屁は小人の
都市一つ消すには十分すぎる威力だった。
吹き出たガスは雲を散らし、薄黄色い煙をもうもうと立てながら
周囲に広がっていく。その毒ガスに飲まれた地域の植物は
ゆっくり枯れ果て、生物はもがき苦しみながら死滅していく。
舞の一発のすかしっぺは二次被害を含め、合計400万人以上を
殺戮しその地域一帯を死の大地へと変貌させていた。

ブシュッ

ブッ！ブシュウウウウウウ…

ゴッ…

ザァァァァァ…

「…あれ？小人さん達、もしかして私のすかしっぺで…？」
舞は自分の股の下を見るが、そこにあった街は跡形も無くなっていた。まさかこんなにも小人が弱いなど思っていなかったようで、困惑した表情を浮かべる。
「まさかアイドルのオナラに負けちゃう街なんて…あるわけありませんよね？」
轟音を立てながら、再び体勢を変える舞。

ズズズズ…

むちっ♡

ハァハァ

ゴゴゴゴゴゴ……。
雲を散らしながら、凄まじく巨大な物体が複数の都市を覆い尽くす。
丸みを帯びた肌色の天井。超巨大アイドルの尻が、ギリギリまで地面へと接近していた。
「このへんの街は大きいから、きっと私のオナラにも耐えてくれますよね♪」
先程のすかしっぺは舞にとってはただの挨拶代わりであり、肛門の内側では既に数倍の量のガスが充満し、今にも爆発してしまいそうだった。
「全部出してスッキリしたいんです。皆さん協力して下さいね♡」

むん

むぁっ

ブブブブブブブブブブブブ

「舞の本気オナラ、たっぷり堪能して下さいね♪水着もずらしておきましたから、お尻の穴もよく見えると思います！」
むんむんと蒸れた舞の肛門が外気にさらされ、周囲の大気を熱気で包む。すぐ近くを飛んでいた旅客機がホコリにしか見えない程のピンク色のすぼまりが、地上にいる何千万人もの小人達に絶望を与えた。

ぃくっ♡ ぃくっ♡ むわっ もわ…

ビキ ビキ♡

「大怪獣マイのオナラ攻撃、いっちゃいます♪そーれっ♡」

ブッ!!!ブゴオオオォォォオオォォオ!!!!!!!!

巨獣の咆哮のような爆音が惑星を揺るがす。すかしっぺとは比べ物にならない衝撃波が肛門の真下の大都市を瞬時に蒸発させ、周囲の山脈を塵に変えてしまう。
舞の放屁の一撃は周辺の都市3つを巻き込み、120万人以上の人間が揉み潰され即死していた。

彼らの生活や築いてきた文明は、舞が放った特大放屁により地上から完全に消し去られる。
「んっ…♡思いっきりオナラするの気持ちいいですね♪2発目もいっちゃいますよ～！」
一発ですら核兵器を軽く凌駕する威力の屁を、舞は地上に向かって何発も放つ。下品な音が豪快に惑星に轟く度、何十万、何百万人もの小人が消し飛び、死に絶えていった。舞の尻の周辺、数百km以内の都市は何発もの放屁の衝撃で完全に壊滅し、山脈は崩れ去り大気は汚染される。
「ふぅ～～…♡私のオナラ、ちょっとうるさかったかな…？」

ブッ!!! ブッ!!! ブッ!!!

ズウン

「小人さんの街って柔らかいんですね♪なんだかムズムズします」
わざと灰色の地面に足の裏をかざし、恐怖を煽ってから一気に踏み潰す。ぐりぐりと踏みにじってから足を持ち上げてみれば、そこにはくっきりと舞の足跡が残る。
「えへへ、大怪獣マイの足跡スタンプです♪がおー！怖かったですか？」
無垢な笑顔を地上に向ける舞。
その一歩で20万人が足裏のシミになったが、彼女は気にも止めていなかった。

超巨大アイドルが新たな大陸を踏みしめ歩く。
汗に蒸れた全長数十kmもの足の裏で都市も山も一緒くたに踏みにじり、足跡型のクレーターに圧縮しながら舞は小人達に話しかける。
「こんにちは！向こうの大陸、私のオナラで滅んじゃったのでこちらで休憩させてもらいますね♪」
一切悪気のない一歩。その下で何十万もの命が圧殺され、汗と混じり合いドロドロとしたゴミと化していた。
逃げようとしても無駄だった。地平線の彼方からたった数歩で大陸を跨いでくるアイドルを見上げたと思ったら、一瞬後には汚れた足の裏が空一面に広がり踏み潰される。

ズウン

ズッ

ゴゴゴ

もわっ

ゴゴゴ

むん。

むん

むん。

ズズウウウウウン

ズゴォォォォォ…
ザァァァァ
グシャ
グシャ
ズズ…
プチ
プチッ
グシャッ
ズズウウウン……。
無造作に大地に座り、尻の下や手のひらでいくつもの街を押し潰す舞。
投げ出した脚を器用に操り、足の裏や指で地表を蹂躙していく。
「ここにも小人さん住んでるのかな？ほんとちっちゃいんですね♪」
足の親指で優しく地面を撫でる。指の腹の下でミクロサイズの高層ビルがぷちぷちと弾け、瓦礫となって汗ばんだ肌に張り付いてく。
むんむんっ
もわっ
グシャ
ズズウウン…
ゴゴゴゴゴゴ

座った姿勢から背後に倒れ込む舞の背中や髪の毛、腕の下で街や山脈が潰されていく。
「沢山動いたからたっぷり汗かいちゃいました♪」
にじみ出る汗は大気を蒸らし、そこに住む人々は否応なしに舞の体臭を体内に取り入れることとなる。

ズガガガガ…
ズゥゥウン
ハァハァハァ
もわぁ…
ゴゴゴゴ…

特に汗の流れが激しい場所、舞の腋に半分押し潰された街には、巨大な汗の雫が洪水のように流れ込んでいた。
超巨大アイドルの皮膚からにじみ出た老廃物を含んだ生暖かい液体が家々を押し流し、小人達を溺死させていく。
一粒でも高層ビル並の大きさの舞の腋汗は、流れ出るだけで何十万人もの人々を飲み込んでいった。

「あっ…私の腋汗で皆さん溺れちゃって…ごめんなさい！今拭きますね♪」
自分の腋の下で汗に水没した街に気付いた舞は近くにあったまだ無事な街を片手で持ち上げる。
30万人以上が住む都市を軽々と持ち上げた舞。
まるで重さを感じてないような動きで、手のひらを上半身の近くまで持っていく。

ゴゴゴゴゴ

「う～ん、この街でいいかな？適度に広いですし♪
腋汗拭きティッシュに最適です♡」
持ち上げた都市と自分の腋を近付け、満足そうに
頷く舞。そこに住む人々は、上空から迫る汗に蒸れ
た巨大な腋を見上げることしか出来なかった。
舞に街ごと持ち上げられ、逃げる場所などどこにも
ない。ただ腋汗拭きに使われる運命を待つのみだった。

ぐいっ

もわっ♡

「こんなに汗かくなら、拭くもの持ってきたら良かったなぁ」
呟きながら火照った腋に街を擦り付ける舞。ビルや家、人々が
潰れる感触がプチプチと腋から伝わってくる。
遠慮なく腋を拭く様子は、まさにティッシュの扱いだった。
巨大アイドルにとって30万人規模の都市など、一枚の
ティッシュと同等であり、そこに住む人間はそれ以下の存在
でしかない。
腋汗に飲まれ、腋に擦り付けられ、一つの街が消滅する。
「よし！キレイになったかな？ん～、あんまりですね…」
腋を覗き込むが、まだ汗が滲んでいる。小人達は一つの街を
もってしても、彼女の腋一つ満足に拭くことさえ出来なかった。

むにゅ

むん

むん♡

ズズズ…

ぎゅるるるるるる……。
舞のお腹から不気味な音が鳴り響く。
「ちょっと冷えたかな…？お腹痛くなってきちゃいました」
突然の腹痛に、下腹部を撫でる舞。先程の放屁と発汗による
体温低下で、溜まったモノが徐々に下りてきたようだ。
「え～っと、このあたりにトイレは…無いですよね」
見渡してももちろん巨大アイドル用のトイレなどある理由が
無かった。

ぎゅるるるる…

ゴゴゴゴ…

「緊急ですから仕方ないですよね…♪」
しゃがみこんだ舞が、マイクロ水着の紐に手をかける。
今まで頼りなく股間周りを隠していた白い水着が
するりと解き放たれ、ゆっくりと地上へと落ちていった。

しゅるっ…

ヒュウウウ

ウウウ

ズッ…

ドキ

ドキ

ドキ

ぐいっ

ゴゴ

ゴゴ

ゴゴ

ズッッドオオオオォォォォォォォォン!!!!!!!
運悪く真下にあった都市が、舞の水着に押し潰されて消滅した。
巨大アイドルの汗をたっぷり含んだ白い水着。股間を包む部分で
すら一つの街と同じ面積を持つ超重量の物体。
直径数百mの紐がのたうち回り、地表のビルや民家を磨り潰して
いく。逃げ惑う小人達を街ごと覆いかぶさり、地面へめり込んでいく
舞の水着。その厚みと重さに小人都市が勝てるはずもなく、50万人
以上を巻き込みながら、全てが汗臭い水着に圧縮されていった。

ドォォォ

ォォォォン

グシャ

グシャ

グシャ

「えへへ、全部丸見えですね♪恥ずかしいですけど…今から
”トイレ”になる皆さんです。少しくらいサービスしてあげます♪」
放屁の時と同じように、尻を地面に接近させて街の上に肛門を
かざす舞。

決めた場所は大きめの街ではなかったが、中規模の街が周囲に
いくつも集まる地帯。合わせると数百万人は住んでいそうな
都市群をまるごと舞の尻が覆い尽くした。

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ…

むりゅ
ブボボッ
ブシュルルル…
むりゅ
むりゅ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ

むくっ
むくっ
むくっ
むん
むん

「ちっちゃい小人さん達、おっきい舞のお尻の穴が見えますか？
今からこのひくひく動く穴が開いて、も～っと大きなうんちが
出てきます♪」
優しい声で地上に話しかける舞。その間にも、肛門をヒク付かせ
て小人達の恐怖を煽る。
「とっても大きいアイドルうんちに潰されたくない人はしっかり
逃げて下さいね♡それじゃあ出します…っ！」

ドチュッ!!

ぶちゅ ぶちゅ どちゅっ

ズズゥゥゥゥゥン…

もわっ

ズッ…

むん むん

ブッ!!ぶりゅっ…!!!!ぶりゅぶりゅ…!!!

もり ぶりゅ もり ぶりゅ もり ぶりゅ

舞の超巨大肛門が苦しそうにひりだした茶色い巨塔。猛烈な悪臭を噴き出しながら地上にまっすぐ向かって伸びる大便が、そのまま街に突き刺さる。

ズンッッッ!!!!!

舞のうんちの先端で、街の8割が押し潰された。ミクロサイズの建物やそこにいた人々25万人がアイドルの排泄物でぺちゃんこになる。

「あっ…流石にトイレにするには小さすぎましたか…？」

小人の街一つで舞の大便を受け止めきれるわけがなかった。

「でも安心ですね♪周りにはまだ沢山街がありますのでっ」

尻を左右に動かしながら、地上に大便を横たわらせていく舞。

もりもりと肛門から吐き出され続ける特大うんちが山脈を押し潰し、隣町を轢き潰していく。

ゴ…

ゴ ゴ ゴ ゴ

迫りくる大便の壁に為す術無く潰されていく文明。

舞が消化した物の成れの果てがぶちゅぶちゅと下品な音を立てて何十万人もの小人を殺戮していく。

「んっ…♡んっ…こんな感じかな…？私のうんちが大きすぎて、小人さんの街に乗せるの大変です♡」

股下を覗きつつ尻を動かし、円を描くように大便を街に盛り付けていく舞。

「アイドルうんちに負けちゃう小人さん可愛いです♪ちゃんとこれも撮ってくれてますか？無敵の大怪獣マイをしっかり見て下さい♡」

既に街を5つ特大うんちでひり潰している舞。若干興奮した様子で6つ目の都市に狙って排泄し、追加で40万人を圧殺する。

むわっ♡

ぶりゅ ぶりゅ

ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ

ムリ ムリ

ズズズズズ…

ズズゥゥゥゥン…

もわぁ…

「はぁ…はぁ…こんなに沢山出ちゃいました♡宇宙からも見えるかな？」
二本の大便を地表に産み落とした舞。間に街を閉じ込め、120万人がアイドルうんち山脈の中から出られなくなっていた。
「頑張ってハート型うんちにしてみました♪小人さんへの感謝の気持ちです♡」
いくつもの街と数百万人の命を消費し作られたオブジェ。
舞のちょっとした気まぐれで、今日まで普通に暮らしていた人々が巨大アイドルの大便の下敷きになり圧殺されていた。

ずむっ

標高数km、重さ数兆トンに達する世界最大級の山脈がそこに聳え立つ。
舞は一回の排泄で世界の地図を書き換えてしまっていた。
もうもうと立ち上る悪臭は気候や環境を変化させ、まだ無事な都市をじわじわと汚染していく。
二本の大便の中に閉じ込められた人々はその熱気と大気汚染によりゆっくりと蒸し殺されてしまうだろう。
「今日は撮影ありがとうございました♪私からのプレゼント、気に入ってくれましたか？」
人類にはどうすることも出来ない超巨大アイドルの大便山脈。
生き残った人々は、歴史が続く限りこれからも舞の極太うんちに見下されながら生活していくしかなかった。

ゴゴゴ

ゴゴ

いつ来ても小人はん達の街はほんまに小さいどすなぁ

なんや目印になる赤いたわーがあるって聞いとったんやけど…

ズドドドド

ザァァ…

ズドドォオオン

グシャ

グシャ

これだけ小さいと目的の場所を探すのもひと苦労ですわぁ

ズウン…

ズウン…

どこにも見当たりまへんなぁ

ズーン…

ズーン…

間違えて踏みつぶしてもうたかな？

！これやろか？せやけど赤色ちゃうどすなぁ…

ズズウ

まあええわ、大きい建物があるちゅうことは人もぎょうさん居るやろうし…

うちのことを見上げてるやらしい小人はん達にはおしおきせなあかんね♥

ふふ…このままお尻でぺちゃんこにしたってもええんどすけど…

ズシャアア

ズシャ

今日はお腹が張り気味なんどすなぁいまにもあふれ出そなくらいに…

少しやかましいかもしれへんけどしっかり聞いておくれやす♥

ブッボォオオオ

うふふ…♥我ながらすごい音やなぁ…♥

ブビッ!!

ブブッ!

ぎょうさんおる小人はん達がうちのおならで消し飛んでるなんてぞくぞくするわぁ…

ズドドドォオオオオオオオオオオオオオオオ

ずしーん！

ずしーん！

ふふ……アイドル怪獣櫻井桃華ですわ！

ズゥウン

ズゥウン

ゴゴゴゴゴ

踏みつぶされたくない方ははやく逃げてくださいまし♥

キャー

ワー

！

あら？こんな所に人が沢山集まっていらっしゃいますの

わたくしの来訪を待ちにしていらしたのかしら？

ズズズズ

そんな熱心なファンの方々にはサービスをして差し上げなくてはいけませんわね…♥

ズドォオオ

ズズゥン

ブスゥー…
ブスッ
んっ♥
モコッ…
ムリュ…
ブブッ
あっ…んっ…はぁ…はぁ…出てますわ…♥
ドギュッ
ズドォオ
ゴシャ
ズズズズズズ
このわたくしがお尻の穴からこんな下品な音をさせるなんて
ブッ!
どちゃ
ぶちゅっ
ブッ!!
むちゅ
うぅっ…まだまだ出ますわ…♥
わたくしのアツアツうんち、た〜っぷり受け取ってくださいませ♥
ゴゴゴゴゴゴー
もわっ…
はぁ…はぁ…こんなに出したの初めてですわね…
とても気持ちよかったですわ！貴方がたもわたくしのうんち山脈で押し潰されて幸せですわね♪
ズドドオオ…

あとがき

■サークル　おちこにうむ
■代表　寺田落子
■ゲスト　rakiA
■発行日　2019/12　C97
■Twitter　@teradaochiko
■pixivID　277281
■連絡先　ragnarok1129@hotmail.com
■印刷　株式会社サングループ様

表紙の撮影の後、お腹が冷えたからか惑星の上で排泄を始める舞ちゃん。お尻の下の大陸に、丁寧に特大うんちを盛り付けていきます。
「小人さん、ちょっとおトイレ貸して下さいね♪」
小学生アイドルの、直径数百kmの超巨大肛門からひり出されるゆるゆるうんちがいくつもの国と何千もの都市、数億人の人間を押し潰していきます。
「丁度いい大陸があってよかったぁ。大怪獣マイのうんち、全部受け止められるかな？」
意地悪そうな表情を浮かべ、ぶりゅぶりゅと大便で大陸を埋めていく舞。すでに真下の大陸のほとんどは舞の巨大うんちに押し潰され、落下の衝撃と放屁音により生き物は死滅していた。

次々と排泄される超巨大アイドルの大便。
小惑星級の質量があるそれは大陸を押し潰し、惑星の地殻へとめり込んでいく。直径数百km、全長5000kmを超える舞の排泄物が小人の文明の上に横たわる。
表面の凹凸ですら地上のどの山脈よりも巨大なうんちにより、人類は滅亡に追いやられていた。
排泄と同時に吹き出す高温の毒ガスは惑星を包む大気を上書きし、全ての生き物は強制的に舞の屁で呼吸する事となった。
「ん～…っ♡誰にも迷惑かけずに思いっきりうんちするのは気持ちが良いですね♪」
開放的な格好で惑星にしゃがみ込み、豪快に排泄する舞。その尻の下で、何十億もの人類が彼女の生理現象で殺戮されていた。

超大型アイドル

R-18

ギガダイズ
蹂躙&スカトロ

おちこにうむ